

講義名	対)公務員特別演習			授業形態	
担当教員	中島 孝子 / 羽森 直子		開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	
	単位数	2	履修開始年次	4年生	ナンバリング

主題と概要

公務員特別演習は、公務員を目指す経済学部生を対象とする。1年後期(演習)から4年前期(演習)まで一貫したプログラムである。「究極のサービス業」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支える非常にやりがいのある職業である。したがって、この演習のみで合格できるほど公務員試験は甘くはない。また知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人材も求められていない。つまり公務員試験には、自ら考え、仲間とともに正解のない問題に挑戦できる総合的な能力が求められている(まさに本学が掲げる「ネアカのひのびへこたれず」の精神をもった人材)。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効果的に進捗できるように、様々なヒントを段階的に与えることで、公務員を目指す進路をサポートしていく。

本科目は、公務員をめざす学生を補助することを目的とする。具体的には、公務員特別演習で修得してきた知識をもとに、公務員登用試験(教職型)の準備をおこなう。これまでに学んだ経済学の基本事項を確認し、それらを活用することを学ぶ。

到達目標

本科目では以下を到達目標とする。
 1.具体的な進路を決定できる。
 2.公務員試験合格を目指して、知識の応用とともに、応募書類の準備や面接の練習をおこなうことができる。
 本科目は、演習の要素の強い科目であるため、対面授業のみとする。

提出課題

授業中に指示する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題提出後、講評と解説を行う。場合によっては、課題の修正と再提出を求める。

評価の基準

平常点75%、レポート課題点25%

履修にあたっての注意・助言他

- ・本クラスは、真剣に公務員試験合格を目指す学生を対象とする。理由なく遅刻・欠席しないこと。
- ・本プログラムの学習のみで合格できるほど、公務員試験は甘くない。本クラスはあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。
- ・学内の公務員試験対策講座(3年生から始まる有料講座)等の受講。もしくは外部専門学校の受講(ダブルスクール)を強く勧める。
- ・「基礎技能B」以外の関連する正課授業も、期次・履修すること強く推奨する。
- (共通)法学入門、経済学入門、地域まちづくり概論、防災まちづくり論、業界研究(官公庁)
- (行政職希望)民法A・B、憲法、政治学、財政学、行政学、地方行政論、地方財政論、経済数学、ミクロ経済、マクロ経済
- (公安職希望)基礎技能A(数的処理)

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

必要に応じて資料を配布する。

授業計画

- 第1～2回 卒業後の進路・基本概念の復習と応用1
- 第3～5回 応募書類の作成・基本概念の復習と応用2
- 第6～8回 筆記試験1・基本概念の復習と応用3
- 第9～11回 筆記試験2・基本概念の復習と応用4
- 第12～14回 面接練習・基本概念の復習と応用5
- 第15回 まとめ
- *15回すべて教員2名(中島・羽森)が担当する。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

課題作成のための調査、情報収集を行うこと。(2時間×15回)
 課題の文章を作成すること。(2時間×15回) (合計60時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学での学びおよび、経済学を中心とする学部での学びを通じ、経済学部の学生は、現代社会における問題を観察し、課題に対する解決策を提案できることが求められる。様々な仕事の中でも公務員は、課題の具体化や課題に対する解決策を提案する能力が必要とされるだろう。卒業後、大学の学びを通して培った能力を、公務員として生かし発揮するためには、公務員登用試験に合格する必要がある。本科目は、公務員をめざす学生を補助する役割を担う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

なし

備考